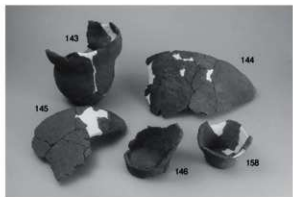
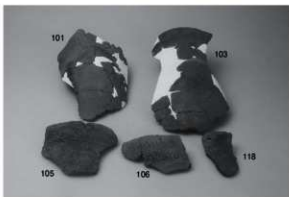
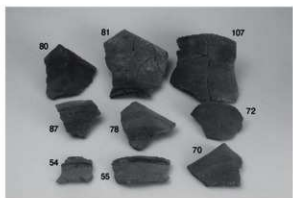
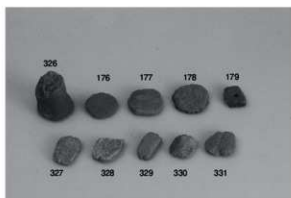
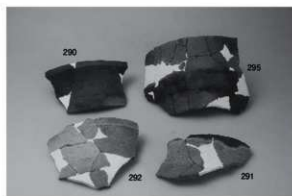
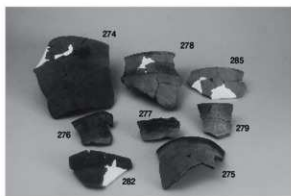
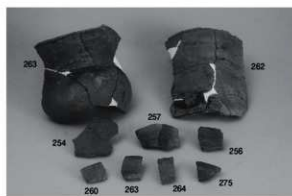
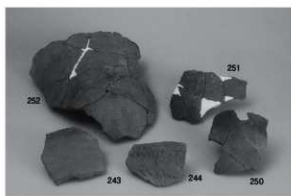
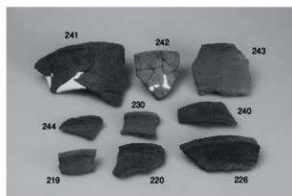
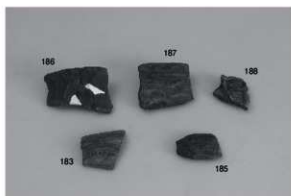
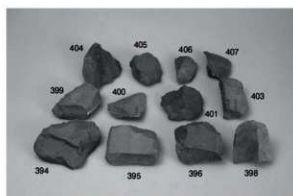
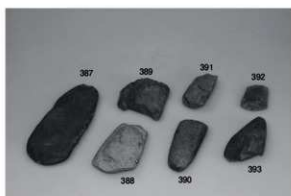
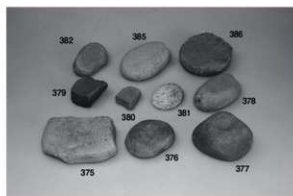
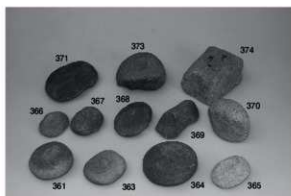


图版 6





图版 8



实测图未掲載石皿、砥石類

報 告 書 抄 録

ふりがな	まつぞえいせき							
書名	松添遺跡							
副書名	青島地域総合センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第125集							
編著者名	福岡 洋道							
発行機関	宮崎市教育委員会							
所在地	〒880-2101 宮崎市大字跡江4200番地3							
発行年月日	2019年3月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
松添遺跡	宮崎市青島西2丁目	45201	22-062	31° 48' 07" 付近	131° 27' 43" 付近	20150721 / 20160210	458㎡	青島地域 総合セン ター建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な出土遺物		特 記 事 項		
松添遺跡	散布地	縄文時代 古代	土坑 谷状の窪み 溝状遺構 池状遺構 土坑	深鉢形土器 浅鉢形土器 台付鉢形土器 台付皿形土器 土鉢、土器加工円盤 石鏝、石匙、石錘 敲石、砥石、石斧 スクレイパー 土師器、須恵器				
要約	松添遺跡							

宮崎市文化財調査報告書 第125集

松添遺跡

青島地域総合センター建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2019年3月

発行 宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書 第125集

まつ ぞえ い せき
松 添 遺 跡

—青島地域総合センター建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2019

宮崎市教育委員会

序

本書は、青島地域総合センターの建設地において、平成27年度に発掘調査を実施した宮崎市青島西二丁目に所在する松添遺跡の発掘調査報告書です。

松添遺跡は、松添貝塚という名称で縄文時代後晩期の貝塚として、昭和20年代から調査研究が行われてきた宮崎の縄文時代研究の基点ともいべき遺跡で、地元の方々にも古くからよく知られております。

平成の始めにおこなわれた土地区画整理事業に伴う発掘調査は道路部分とその周辺部の調査であったものの縄文土器のほか、石器、骨角器、貝器等が、パンケースにして1800箱以上出土するという、周辺地で営まれた大規模な縄文人の生業を垣間見る結果となりました。本書でまとめられた発掘調査はその隣接地で実施された調査になります。

本書の成果が広く市民の皆さまに活用され、新たな青島地区の魅力の一つとなれば幸いです。

最後になりましたが、調査の実施にあたり、ご理解とご協力をいただいた地元の皆様、関係機関の皆様、発掘作業、整理等作業に従事していただきました作業員の皆様方に心より感謝申し上げます。

平成31年3月

宮崎市教育委員会

教育長 西 田 幸一郎

例 言

1. 本書は、青島地域総合センター建設工事に伴っておこなわれた、宮崎県宮崎市青島西2丁目に所在する松添遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本業務は、宮崎市教育委員会が平成27年度に宮崎市企画財政部財政課公共施設経営室の依頼を受け発掘作業を実施し、平成28年度から平成30年度に宮崎市地域振興部地域コミュニティ課から依頼を受け整理等作業を実施した。
3. 発掘作業に伴う文化財保護法の手続きは以下のとおりである。

平成26年度（発掘調査）

工事通知	平成27年4月14日	（宮教文767号1）
着手報告	平成27年9月10日	（宮教文100号3）
完了報告	平成28年2月17日	（宮教文第100号5）
発見通知	平成28年2月16日	（宮教文第937号）
保管証	平成28年2月25日	（宮教文第937号1）

4. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体 宮崎市教育委員会 文化財課

平成27年度（発掘調査）

文化財課	課長	日高 貞幸
総 括	埋蔵文化財係長	井田 篤
調整事務	主任技師	河野 裕次
調査担当	主査	稲岡 洋道
	嘱託員	川野 誠也
経費執行	企画財政部管財課	
	福祉部子ども課	
	福祉部子育て支援課	
	教育委員会生涯学習課	

平成28年度（整理等作業）

文化財課	課長	日高 貞幸
総 括	埋蔵文化財係長	井田 篤
調整事務	主任技師	河野 裕次
調査担当	主査	稲岡 洋道
	嘱託員	佐伯 美佐子
経費執行	地域コミュニティ課	

平成29年度（整理等作業）

文化財課	課長	羽木本 光男
総括	副主幹兼理蔵文化財係長	井田 篤
調整事務	主任技師	河野 裕次
調査担当	主査	稲岡 洋道
	嘱託員	佐伯 美佐子
経費執行	地域コミュニティ課	

平成30年度（整理等作業）

文化財課	課長	富永 英典
総括	主幹兼理蔵文化財係長	井田 篤
調整事務	主任技師	河野 裕次
調査担当	主査	稲岡 洋道
	嘱託員	佐伯 美佐子
経費執行	地域コミュニティ課	

- 掲載した図面の作成は、発掘作業、整理等作業ともに稲岡が嘱託員の協力を得ておこなった。
- 現場写真は稲岡・川野が、遺物の写真撮影は稲岡がおこなった。また、現場の空中写真撮影、及び写真の合成は、（有）スカイサーベイ九州に委託した。
- 本書で使用する方位記号はすべて真北を指す。
- 本書で使用する土色、粒子構造、土層に含まれる粒子等の割合の表記は「新版 標準土色帖」に依拠した。
- 本書で使用する北は真北である。
- 本書で使用する遺構略号は以下のとおりである。
S C…土坑
S E…溝状遺構
S Z…池状遺構、谷状の窪み
- 出土遺物及び掲載図面及び写真、記録等は宮崎市教育委員会で保管している。資料の閲覧・利用に関しては、事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせいただきたい。
- 本書の執筆・編集は稲岡が行った。

本文目次

第1章 遺跡の位置と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 調査に至る経緯と松添遺跡の調査歴	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 松添遺跡の調査歴	3
第3章 調査の成果	5
第1節 調査の概要	5
第2節 土層の堆積	5
第3節 A区Ⅱ層の調査	7
第4節 A区Ⅲ層の調査	32
第5節 B区の調査	44
第6節 C区の調査	46
第4章 総括	85

挿図目次

第1図 松添遺跡周辺遺跡図	2	第17図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑧	20
第2図 松添遺跡調査履歴図	4	第18図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑨	21
第3図 松添遺跡調査区図	6	第19図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑩	22
第4図 A区Ⅲ層上面検出遺構配置図	8	第20図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑪	23
第5図 A区1号土坑実測図	9	第21図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑫	24
第6図 A区2号土坑実測図	9	第22図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑬	25
第7図 A区1号土坑出土土器実測図①	10	第23図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑭	26
第8図 A区1号土坑出土土器実測図②	11	第24図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑮	27
第9図 A区2号土坑出土土器実測図	12	第25図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑯	28
第10図 A区Ⅱ層出土土器実測図①	13	第26図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑰	29
第11図 A区Ⅱ層出土土器実測図②	14	第27図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑱	30
第12図 A区Ⅱ層出土土器実測図③	15	第28図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑲	31
第13図 A区Ⅱ層出土土器実測図④	16	第29図 A区Ⅳ層上面検出遺構配置図	32
第14図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑤	17	第30図 A区3号溝状遺構実測図	33
第15図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑥	18	第31図 A区Ⅲ層出土土器実測図①	34
第16図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑦	19	第32図 A区Ⅲ層出土土器実測図②	35

第33図	B区調査区図	44	第48図	C区谷状の窪み出土土器実測図⑩	62
第34図	B区出土土器実測図	45	第49図	C区谷状の窪み出土土器実測図⑪	63
第35図	C区検出遺構配置図	46	第50図	C区谷状の窪み出土土器実測図⑫	64
第36図	C区1号溝状遺構、池状遺構実測図	49	第51図	C区谷状の窪み出土土器実測図⑬	65
第37図	C区1号溝状遺構、池状遺構出土土器実測図	50	第52図	C区谷状の窪み出土土器実測図⑭	66
第38図	C区谷状の窪み実測図	51	第53図	出土土器実測図①	73
第39図	C区谷状の窪み出土土器実測図①	52	第54図	出土土器実測図②	74
第40図	C区谷状の窪み出土土器実測図②	53	第55図	出土土器実測図③	75
第41図	C区谷状の窪み出土土器実測図③	55	第56図	出土土器実測図④	76
第42図	C区谷状の窪み出土土器実測図④	56	第57図	出土土器実測図⑤	77
第43図	C区谷状の窪み出土土器実測図⑤	57	第58図	出土土器実測図⑥	78
第44図	C区谷状の窪み出土土器実測図⑥	58	第59図	出土土器実測図⑦	79
第45図	C区谷状の窪み出土土器実測図⑦	59	第60図	出土土器実測図⑧	80
第46図	C区谷状の窪み出土土器実測図⑧	60	第61図	出土土器実測図⑨	81
第47図	C区谷状の窪み出土土器実測図⑨	61	第62図	出土土器実測図⑩	82
			第63図	昭和40年頃の松添遺跡の周辺地形	86

表目次

第1表	A区出土土器観察表①	36	第9表	B区出土土器観察表	45
第2表	A区出土土器観察表②	37	第10表	C区出土土器観察表①	67
第3表	A区出土土器観察表③	38	第11表	C区出土土器観察表②	68
第4表	A区出土土器観察表④	39	第12表	C区出土土器観察表③	69
第5表	A区出土土器観察表⑤	40	第13表	C区出土土器観察表④	70
第6表	A区出土土器観察表⑥	41	第14表	C区出土土器観察表⑤	71
第7表	A区出土土器観察表⑦	42	第15表	出土土器観察表①	83
第8表	A区出土土器観察表⑧	43	第16表	出土土器観察表②	84

写真目次

図版1	発掘作業の状況①	87	図版5	発掘作業の状況⑤	91
図版2	発掘作業の状況②	88	図版6	出土遺物①	92
図版3	発掘作業の状況③	89	図版7	出土遺物②	93
図版4	発掘作業の状況④	90	図版8	出土遺物③	94

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

松添遺跡のある青島地区には景勝地として有名な「青島」がある。この青島は、砂岩と泥岩の互層が沈降後、浸食され形成された「青島の隆起海床と奇形波蝕痕」上に潮流によって土砂が堆積した陸繋島で、島の形成は3000年前頃の縄文時代後期とされている。なお、青島の隆起海床と奇形波蝕痕は国の天然記念物に、青島本島に繁茂するピロウなどの大群は「青島亜熱帯性植物群落」として国の特別天然記念物に指定されている。

松添遺跡はその青島本島のある海岸から約300m内陸に入った砂丘上に形成された遺跡である。この砂丘は海岸砂丘で、青島地区の北の端の加江田川以南から青島港に注ぐ突浪川付近までの長さ約3.0km、幅0.3～0.5mで、海岸線に平行するように形成され、砂丘上には縄文時代以降の遺跡が点在しており、現在の青島地区の集落の主体もこの砂丘上に形成されている。

遺跡は海からほど近い場所に所在するものの、遺跡のすぐ南には鰐塚山地（鵜戸山地）と呼ばれる山塊が迫るが、集落遺跡の存在を想起させるような平地は付近の山上には見当たらない。

第2節 歴史的環境

松添遺跡の所在する青島地区は宮崎市の中では遺跡が比較的稀薄な地域である。遺跡の多くは松添遺跡が所在する砂丘上に在るが、緊急調査や学術調査によって内容が明らかなのは松添遺跡のほか、右葛ヶ迫遺跡、納屋向遺跡があげられる程度である。松添遺跡から南東方向に約200mには一般国道220号線青島バイパス建設工事に伴い、宮崎県教育委員会によって平成6、7年に調査が実施された右葛ヶ迫遺跡がある。調査では縄文時代中期後葉の竪穴建物2軒、集石遺構8基が確認された他、弥生時代中期前葉～後期初頭の竪穴建物3軒、古墳時代全般の竪穴建物8軒が確認されている。特に出土した縄文土器は中期初頭から晩期の長期に渡る期間の土器が出土しており、時期、遺跡間の距離からも松添遺跡との関連の高い。松添遺跡から南南東方向に約2kmには納屋向遺跡がある。この納屋向遺跡付近までが松添遺跡が乗る砂丘の南限で、南側には突浪川の支流納屋向川が流れる。納屋向遺跡は昭和40年に宮崎高等学校によって発掘調査が実施された。丸尾式土器を中心とする縄文時代後期後葉から晩期を主体にかけての土器が出土しているが、遺構は検出されていない。

縄文時代以外の遺跡としては松添遺跡の北西側に接するように存在する丘陵上に県史跡青島村古墳がある。昭和10年に5基の円墳が県史跡に指定され、平成2、3年に宮崎市教育委員会が5号墳でおこなった確認調査では5号墳の石室内から土師器碗が出土している。松添遺跡から南東方向に約2.5km、突浪川河口右岸部に海に突き出た標高00mの丘陵上には紫波洲崎城跡がある。応永年間（1394～1428年）の築城とされ、歴史の大半は伊東氏が治める城であったが、日向地方全体でおこった伊東と島津の争乱の中、紫波洲崎城においても何度も互いの攻防繰り上げられた。天正5年（1577年）に伊東氏が豊後に逃れたのちは島津方に移り、宮崎城主の上井覚兼の父上井薫兼が城主となったが、豊臣秀吉の九州平定後は再び伊東氏が有し、元和元年（1615年）に廃城となった。



- ①松添道跡 ②萩野道跡 ③子供の国西道跡 ④萩野道跡
 ⑤歴史跡 青島村古墳 ⑥石巻ヶ道道跡 ⑦青島四丁目道跡
 ⑧納屋向道跡 ⑨紫波洲崎城跡 ⑩下白浜道跡 ⑪山ノ口道跡

第1図 松添遺跡周辺遺跡区 (1/18000)

第II章 調査に至る経緯と松添遺跡の調査歴

第1節 調査に至る経緯

今回の発掘調査の原因は宮崎市青島地区における青島地域総合センター（青島地域センター、青島児童センター、青島保育所、青島公民館）建設である。今回の事業地は従来より埋蔵文化財包蔵地「松添貝塚」とされている箇所であり、平成25年に当該地における青島地区公共施設建設事業計画が立ち上がり、平成26年2月に事業予定地全体を対象に確認調査を実施。調査の結果、現況地面から1.3～2.6m以下の深さで埋蔵文化財の存在を確認した。

なお、松添貝塚の名称は昭和28年の宮崎大学の調査結果に基づき付されたものであるが、それ以降の調査で貝塚が形成されたのはごく限られた範囲であることが解ってきたものの名称には「貝塚」が残っていたが、平成26年の確認調査においても貝塚が確認されなかったことも踏まえ、遺跡全体を「松添遺跡」という名称に改めた。

平成27年7月、宮崎市長より埋蔵文化財発掘調査の通知が提出。建物建築により埋蔵文化財に影響のある部分を対象に発掘調査を実施することになり、同年7月21日より発掘作業を開始し、平成28年2月10日に終了した。

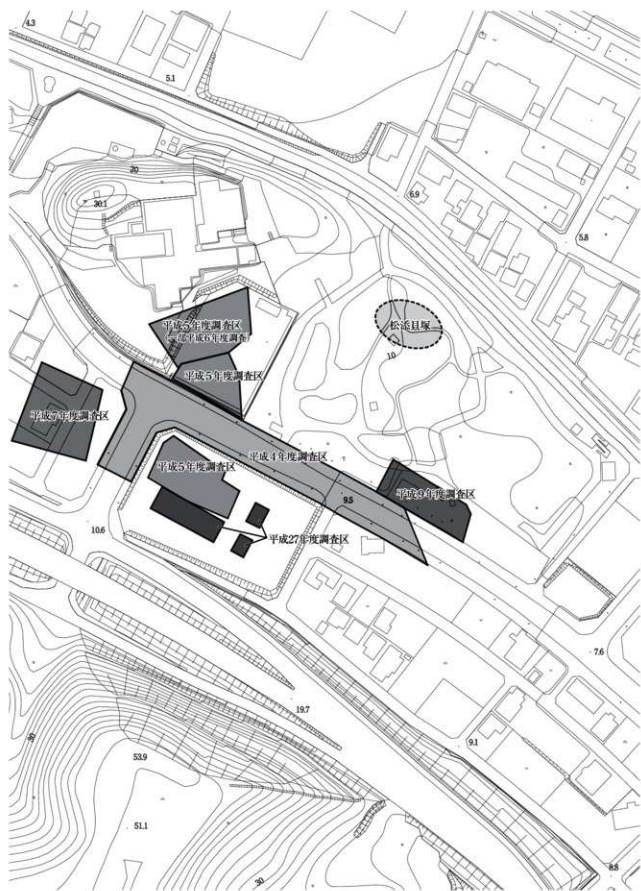
第2節 松添遺跡の調査履歴

松添遺跡では、松添貝塚時代の調査も含め、今回の調査までに合計10回の発掘調査が実施されており、宮崎市教育委員会が主体として調査を実施したのは今回が第7次となる。

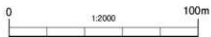
これまでの調査履歴は以下の表のとおりで、調査箇所は第2図を参照いただきたい。なお、昭和28年、37年、42年の調査箇所については概ねの調査地を示している。

昭和時代におこなわれた調査は「松添貝塚」の内容と貝塚の分布を確認することを目的とする調査で、その分布は現在の青島歴史文化の広場内の北よりの一帯の東西12m、南北18mの範囲とされる。平成4年度から7年度に宮崎市が行った青島シーガル土地区画整理事業に伴う発掘調査で、平成4年度は幹線市道整備部分を対象に、平成5年度から7年度は平成4年度調査箇所の周辺地を対象に調査を実施した。青島シーガル土地区画整理事業終了後の平成9年度は青島歴史公園整理事業（現在の青島歴史文化の広場）における駐車場及びガイダンス整備予定地で調査を実施した。

	調査年度	調査機関	原因
①	昭和28年	宮崎大学	学術調査
②	昭和37年	別府大学、宮崎高等学校	学術調査
③	昭和42年	宮崎市教育委員会 1次	遺跡範囲確認調査
④	平成4年度	宮崎市教育委員会 2次	青島シーガル土地区画整理事業
⑤	平成5年度	宮崎市教育委員会 3次	青島シーガル土地区画整理事業
⑥	平成6年度	宮崎市教育委員会 4次	青島シーガル土地区画整理事業
⑦	平成7年度	宮崎市教育委員会 5次	青島シーガル土地区画整理事業
⑧	平成9年度	宮崎市教育委員会 6次	青島歴史公園整理事業
⑨	平成27年度	宮崎市教育委員会 7次	青島地域総合センター建設



第2図 松浜遺跡調査履歴図 (1/2000)
 [図面上が北方向]



第三章 調査の成果

第1節 調査の概要

今回の発掘調査の原因となった青島地域総合センター建設はピロティ構造の建物で、調査対象は平成5年の既調査地を除いた、建物の柱部分と1階の南西部に入る保育所部分を調査対象とした。調査区はそれぞれの設置個所に基づいたもので、A区、B区、C区と呼称した。

調査地は先述した土地区画整理事業時に大規模に盛土造成が行われ、調査前の当該地表面の標高は11.2mで遺物包含層上面もしくは遺構検出面までの深さは、A区で1.8m、B区で1.8m、C区で2.7～3.5mと遺跡の上部の造成層が大規模なものであったため、発掘作業時の安全性確保のため、表土除去の作業に際しては、調査区の壁を1m下げることにより幅1mの段を設けた。

第2節 土層の堆積

第1節で述べたように、今回の調査地には現地表から1.0～3.5mの造成層が厚く堆積する。以下が松添遺跡の基本土層堆積である。

I a層 造成土110～310cm

全体に灰白色を帯びるが、粘質土や直径30～100cmの岩砕を多く含む。土地区画整理の盛土造成の痕跡。A区、B区、C区いずれの調査区でも確認されている。

I b層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 0～40cm

田耕作土層。区画整理事業以前の畑土と考えられる。縄文土器片などを多く含む。1mm以下の白色の粒子を多く含む。A区のみで確認されている。

I c層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 0～15cm

田耕作土層。I b層と似るが、テフラと考えられる1mm以下の白色の粒子を多く含む。縄文土器片などを多く含む。A区のみで確認されている。

II a層 黒色土 (7.5YR2/1) 0～35cm

自然堆積層。砂質でしまりがあり、不純物を含まない。縄文土器片を多く含む遺物包含層。A区で確認されている。

II b層 黒色土 (10YR2/1) 0～25cm

自然堆積層。II a層に比べシルト質で水分に富む。不純物を含まない。縄文土器片を多く含む遺物包含層。B区、C区で確認されている。

III a層 黒褐色土 (10YR3/2) 0～25cm

自然堆積層。砂質でしまりがあり、不純物、遺物を含まない。A区のみで確認されている。

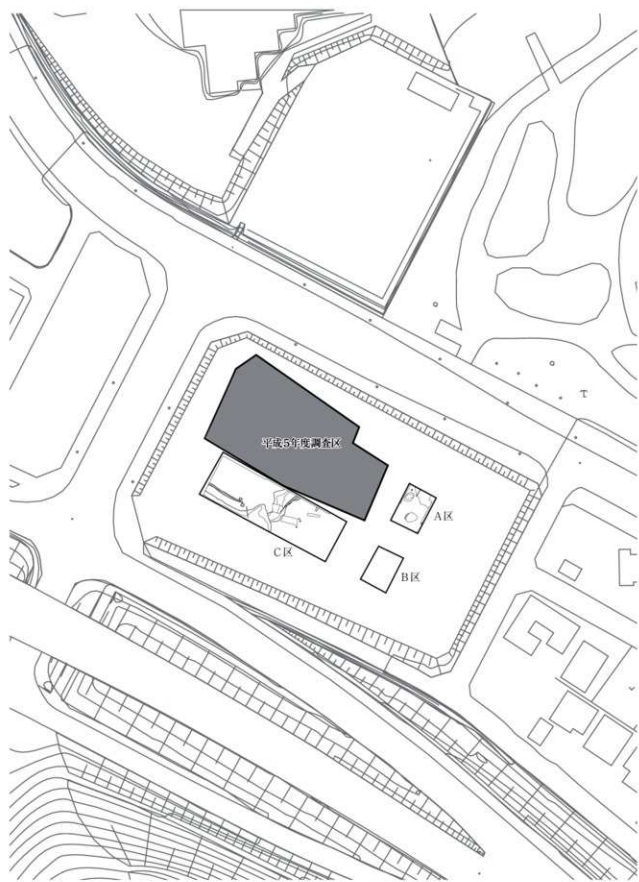
III b層 暗褐色土 (10YR3/3) 0～15cm

自然堆積層。砂質でしまりがあり、不純物を含まない。縄文土器片をわずかに含む遺物包含層。A区のみで確認されている。

IV a層 褐色土 (10YR4/6) 0～15cm

自然堆積層。砂質でしまりがあり、不純物を含まない。10mm程度の軽石を1%含む。遺物を含まない。A区のみで確認されている。

IV b層 黄褐色土 (10YR5/6) 0～20cm



第3図 松添遺跡調査区図 (1/1000)
[図面上が北方向]

自然堆積層。砂質でしまりがあり、黄灰色の砂質土を40%含み、IVa層に比べ明るい。遺物を含まない。A区のみで確認されている。

V層 暗灰黄色土 (25YR4/2) 0～35cm

自然堆積層。シルト質であるが、粘性が強い。遺物を含まない。B区、C区で確認されている。

VI層 灰黄褐色土 (10YR5/2) 0～35cm以上

自然堆積層。粘質でしまりがある。遺物を含まない。C区で検出された遺構下部の壁面や底面で確認されている。

基本層序の堆積順については以上であるが、今回の調査区でI層～VI層を一連で観察できる個所はなく、A～C匠のそれぞれの状況から合成して作成している。特にII～IV層の堆積を明確に確認することができたのはA区のみで、B、C区は調査区の大部分でIa層を除去した後にはV層、VI層が露頭している状況であった。土地区画整理事業に伴う盛土造成以前に一带で切土をおこなったことがうかがえる。

第3節 A区II層の調査(第4図)

A区は調査地の北東部の調査区である。建物基礎が設けられる位置にあたる。短軸8.0m、長軸10.5mの調査面積84㎡を測る長方形の調査区である。現地表面以下の整地用に施された盛土層(Ia層)が約1.1m堆積し、直下には旧耕作土であるIb層が堆積する。それ以下は縄文時代の遺物包含層であるIIa層が約25cm堆積していた。調査区南寄りの位置、調査区北東部では大規模な掘乱坑が見られた。特に北東側の掘乱坑は深さ1.2m以上に及ぶ大規模のものであった。

II層以下の掘削は手掘り作業で実施した。IIa層は縄文時代後晩期の遺物包含層で、調査区東側で厚さ15cm、調査区西側で厚さ25cm堆積していた。包含される遺物は土器類の他、石鏃、石鏃、敲石が出土した他、魚類のものと思われる骨片が数点出土した。遺物はIIa層全体で見られるが、下部に向かうに従い遺物量も増加し土器片も大ぶりになる傾向がみられた。平面的には調査区の中央から西寄りの位置で密集しており(第4図)、調査区外に広がる状況が見られた。

密集した土器群の広がりや平成4、5年の調査区に向かっていることがうかがえる。

遺構はIIa層除去後のIII層上面で土坑が2基確認された。

1号土坑(第5図)

平面形は楕円形に近い形状を呈し、検出面でのサイズは長軸2.75m、短軸1.8mを測る。断面形は明確な壁は見られず、レンズ状を成す。深さ30cmを測る。出土遺物の大半(第7図、第8図)は埋土最上部で検出されており、土壌が堆積する過程で流れ込んだ可能性が高く、遺構の機能を示すものではないと考えられる。土坑底面や埋土中からは土器片が数点出土したのみである。

1～7(第7・8図)は1号土坑出土の土器である。1～4は丸尾式土器に属する一群で、口縁部下に連続貝殻線文を施し、1、3は波状口縁を呈しする。3は胴部から口縁部に向かって直線的に開き丸尾B式分類される。5は外胴部から口縁部下で僅かに括れ、口唇部が肥厚する。外面には横方向の条痕が見られる。6は波状口縁を呈し器形は丸尾式土器に似るが、連続

貝殻腹縁文が見られない。7は市来式土器で断面が三角形に肥厚し、連続刺突文を施す。

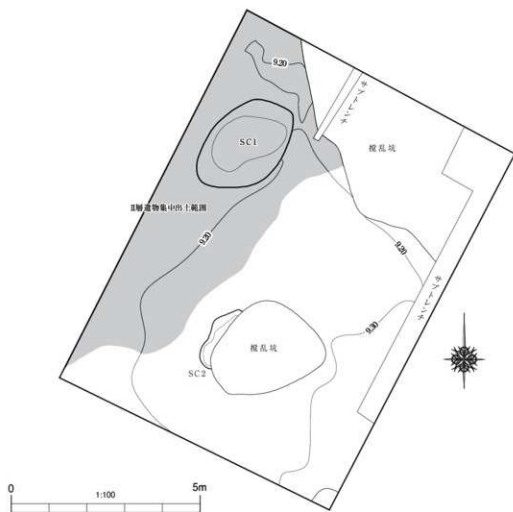
2号土坑（第6図）

平面形は楕円形に近い形状を呈すると思われるが、攪乱坑により欠失している。現存する検出面でのサイズは、長軸1.75m、短軸0.8mを測る。断面形は明確な壁は見られず、レンズ状を成す。深さ25cmを測る。出土遺物（第9図）は埋土中から比較的多く出土しており、丸尾B式の大ぶりの破片や、松山式土器、市来式土器、宮之迫式土器の小破片が出土している。土壌が堆積する過程で流れ込んだ可能性が高い。

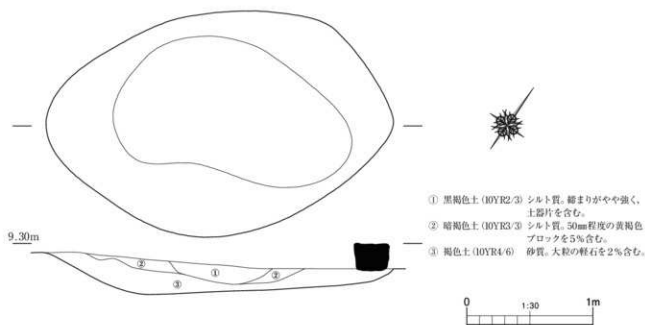
8～12（第9図）は2号土坑出土の土器である。8は口縁部下に連続貝殻腹縁文を施し波状口縁を呈する。口縁部下に段を有しており、丸尾B式分類される。9は口縁部が屈曲しながら外反し、外面に横方向の沈線、口唇部には連続刻みを施しており、松山式土器に属すると思われる。11は口縁部の断面形から市来式と思われる。12は口縁端部外面に連続する凹点を施しており、宮之迫1式と思われる。

A区Ⅱa層出土の土器（第10～28図）

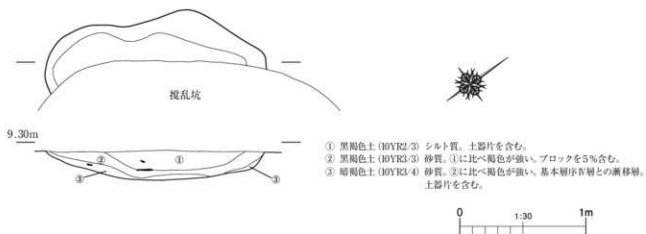
13は春日式土器で、口縁部が内傾し、2列に横方向に沈線を施した土から刻みを施す。刻み



第4図 A区Ⅱa層上面検出遺構配置図 (1/100)



第5図 A区1号土坑実測図 (S=1/30)



第6図 A区2号土坑実測図 (S=1/30)

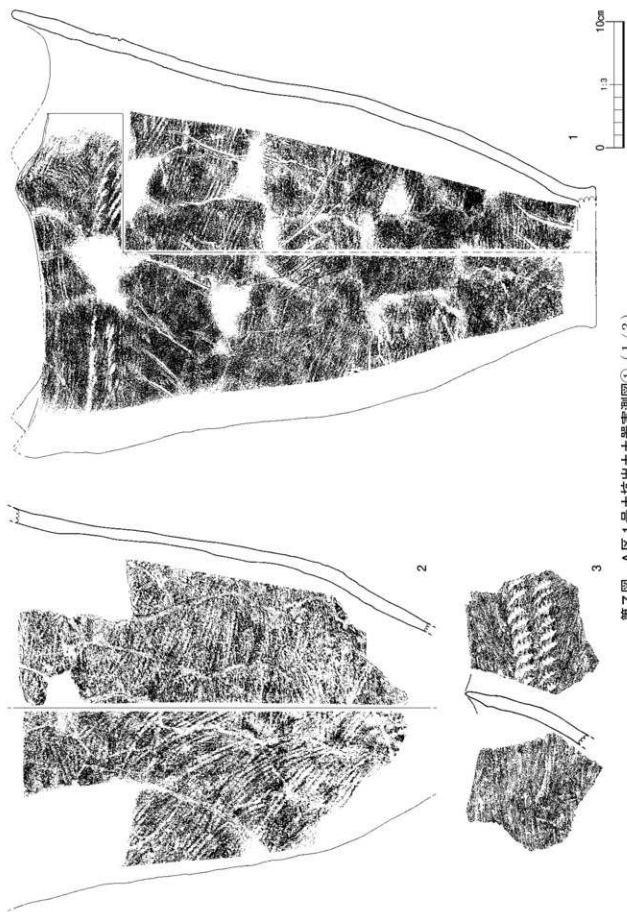
は口唇部内面にも施す。

16は大平式土器で、外面にへら状工具で幾何学的な粗い沈線を施す

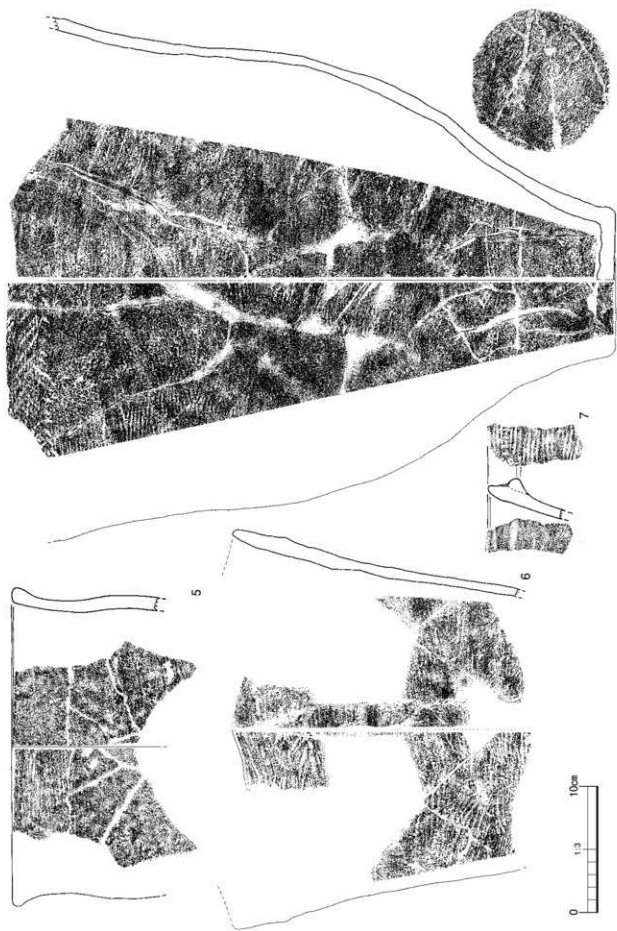
17は外面に細く、高さの低い突帯を有しており、上水流Ⅲ式土器と思われる。

14、15、18～41は宮之迫式土器の一群である。18は宮之迫1式に分類され、口唇部外面に連続した凹点を施す。19、20は宮之迫2式に分類され、波状口縁を呈し、外面に弧を描く凹線を施す。21～40は宮之迫3式もしくは宮之迫4式に分類される。施される凹線は沈線状に細いものが多い。この沈線状の凹線の上下、もしくは凹線間に2段に凹点を施すもの(29、38)、短い凹線を斜めに連続して施すもの(31)、貝殻腹縁文を施すものが見られる(21、23、25、33、36、39、40)。

41～43は納曾式土器の一群である。41は端部が内湾し外面に2条の沈線を施す。器壁は薄い。



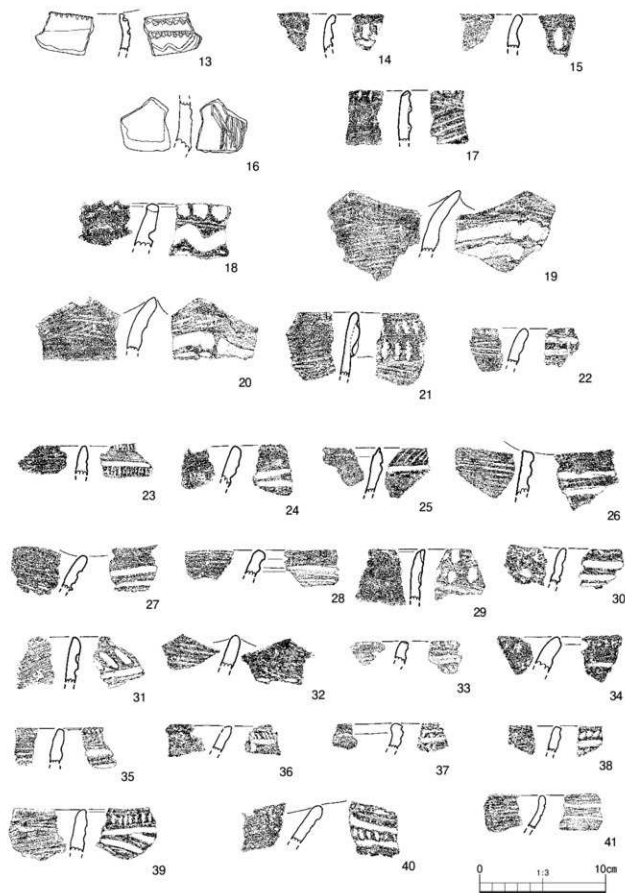
第7图 A区1号土坑出土器类图①(1/3)



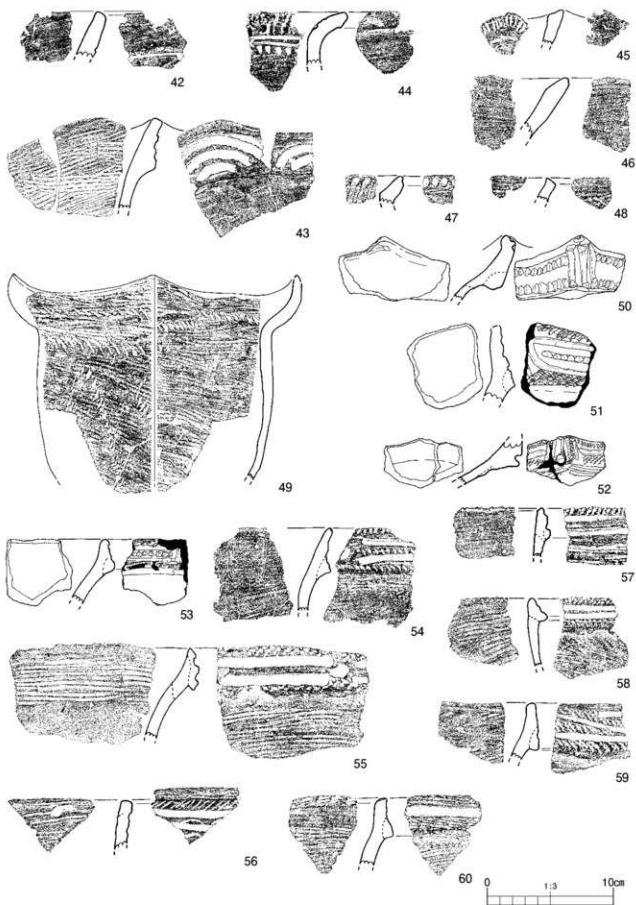
第8図 A区1号土坑出土土器実測図②(1/3)



第9图 A区2号土坑出土土器实测图(1/3)



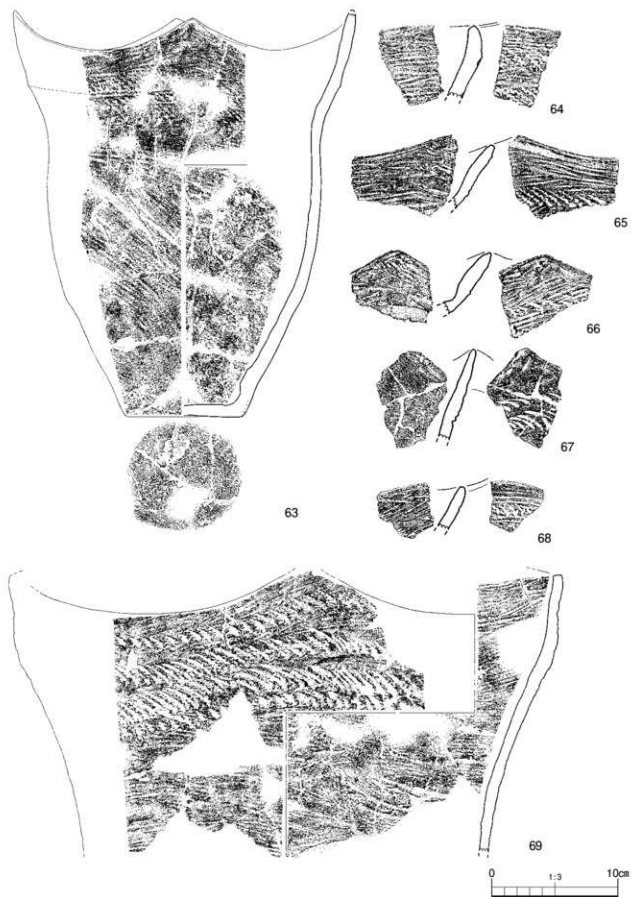
第10図 A区Ⅱ層出土土器実測図①(1/3)



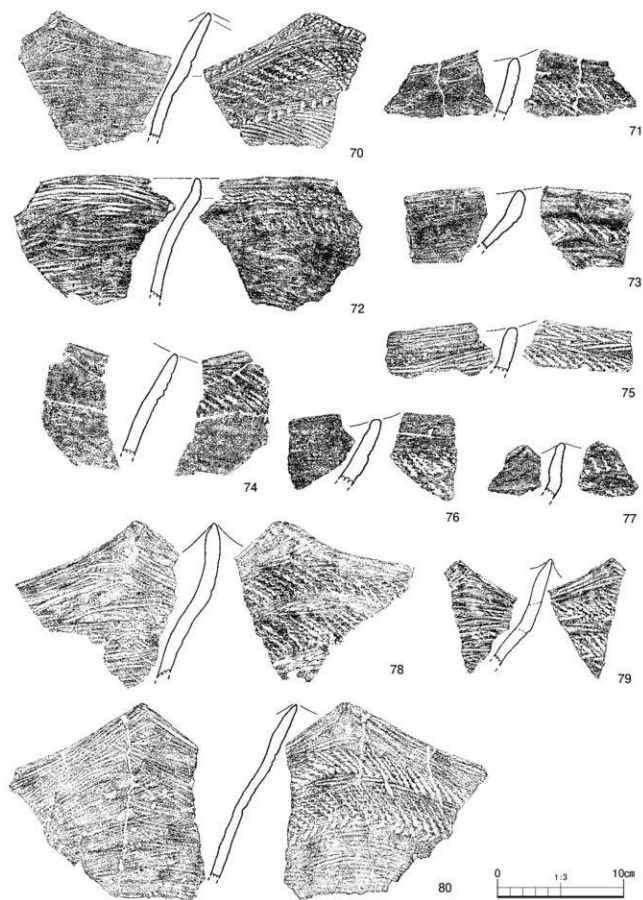
第11图 A区Ⅱ层出土土器实测图②(1/3)



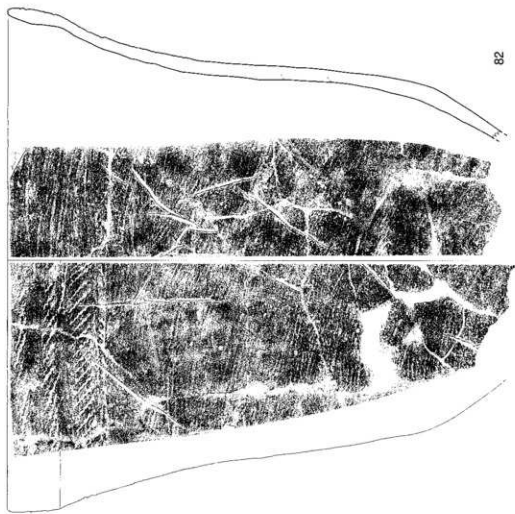
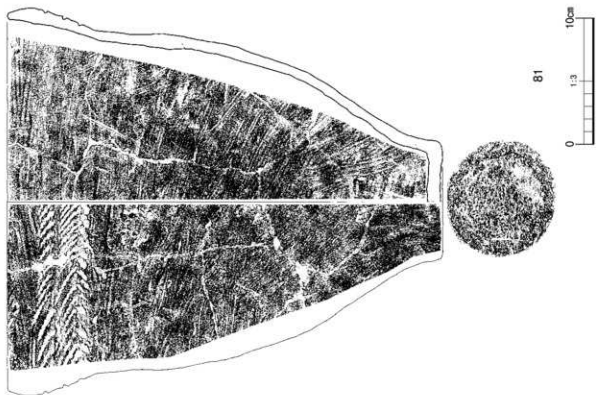
第12図 A区Ⅱ層出土器実測図③ (1/3)



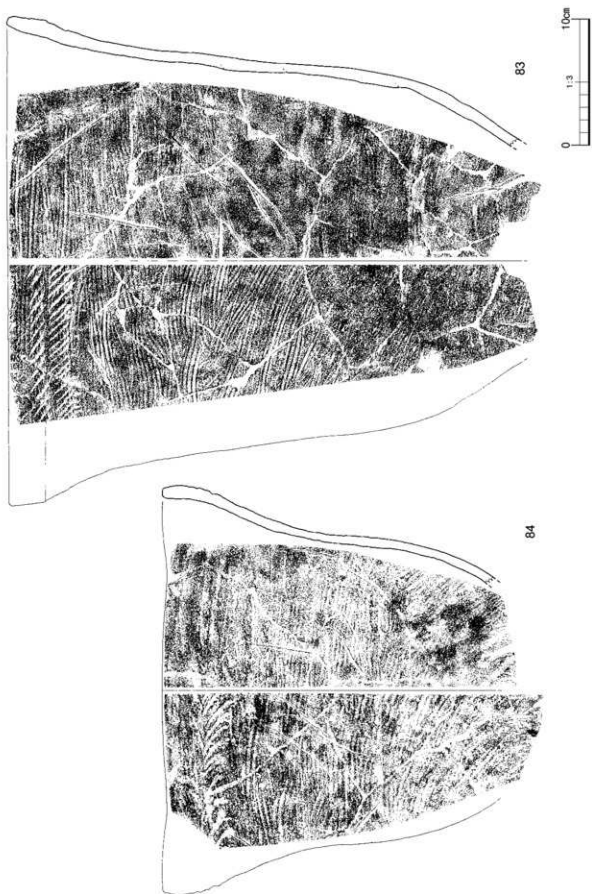
第13图 A区Ⅱ层出土土器实测图④(1/3)



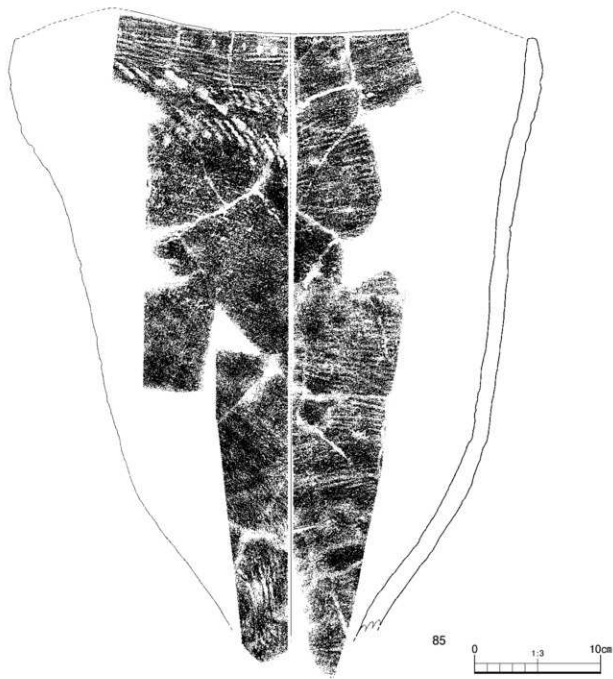
第14図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑤(1/3)



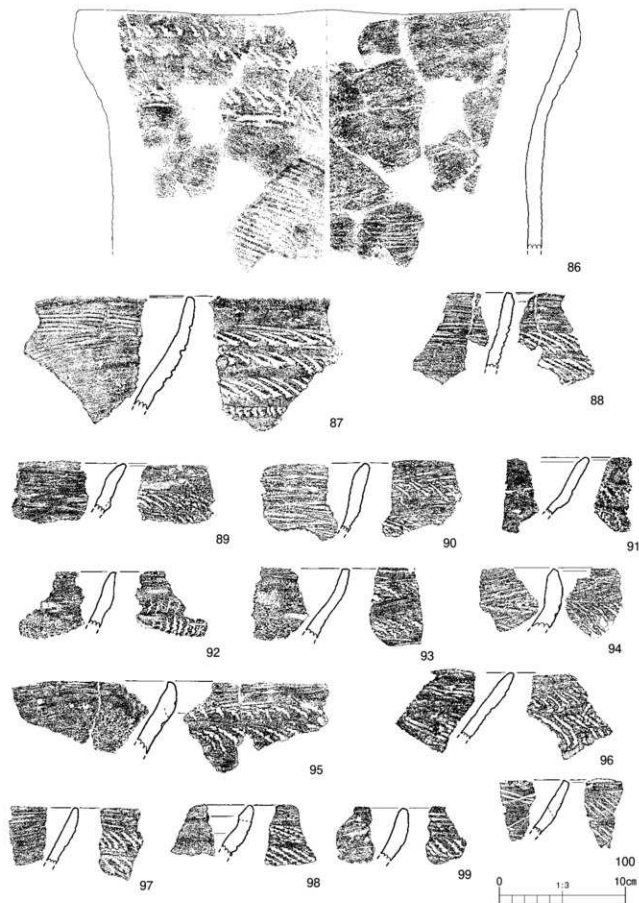
第15图 A区Ⅱ层出土器类图⑥(1/3)



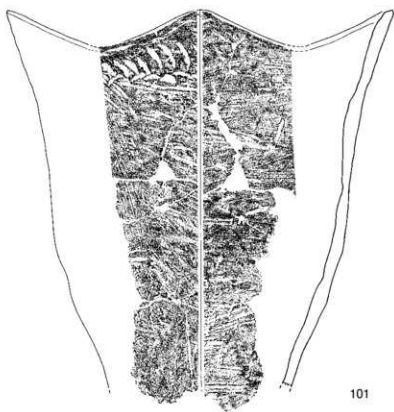
第16図 A区Ⅱ層出土器実測図②(1/3)



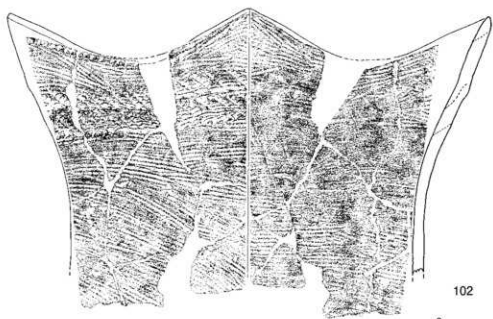
第17图 A区Ⅱ层出土土器实测图⑧(1/3)



第18図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑨(1/3)



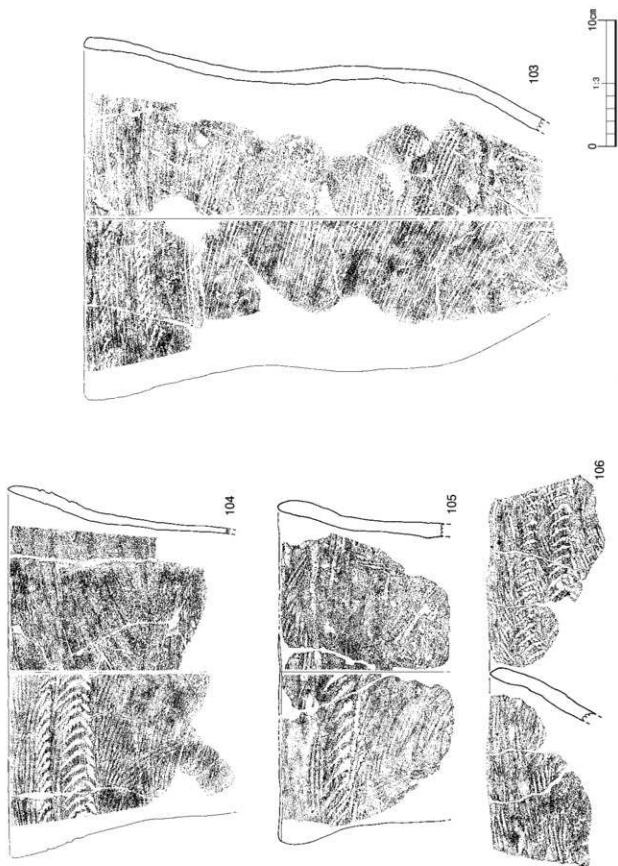
101

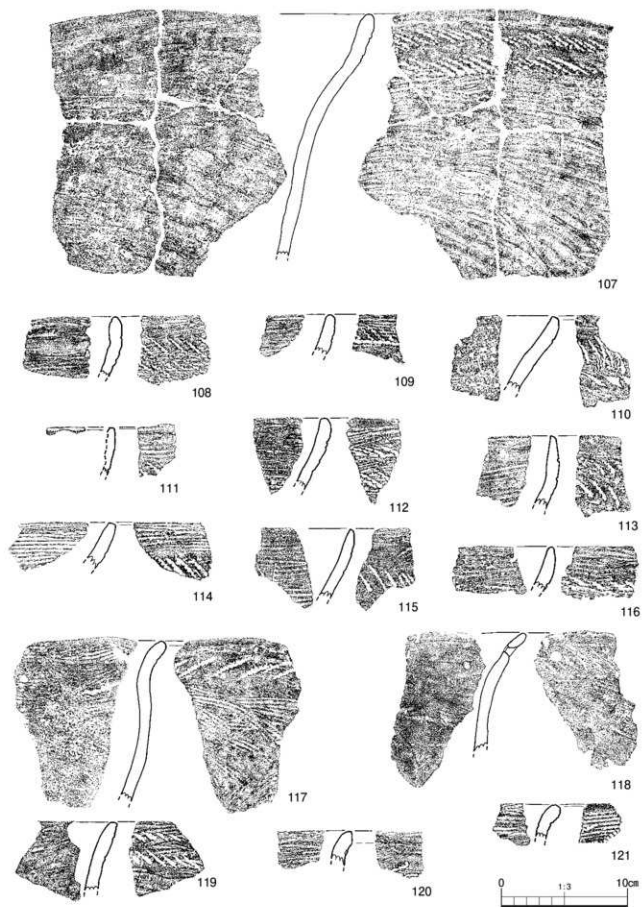


102

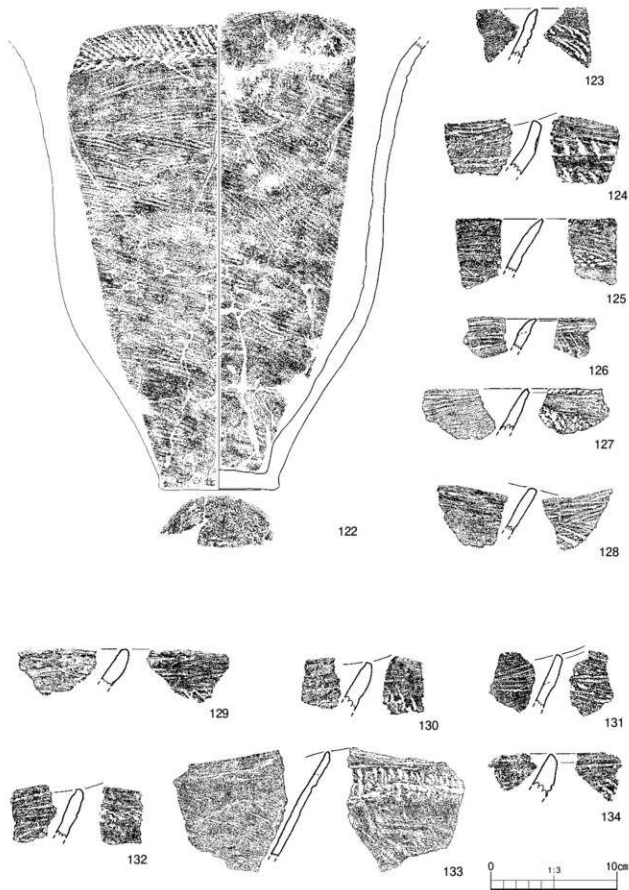


第19图 A区Ⅱ层出土土器实测图⑩(1/3)

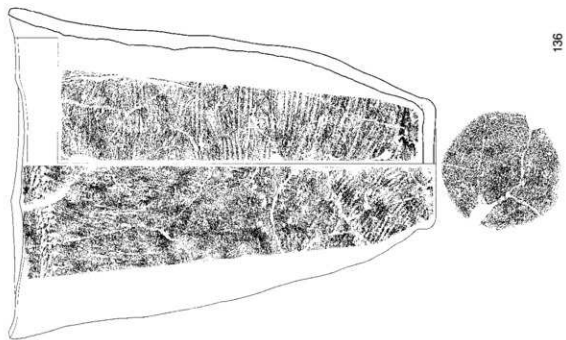
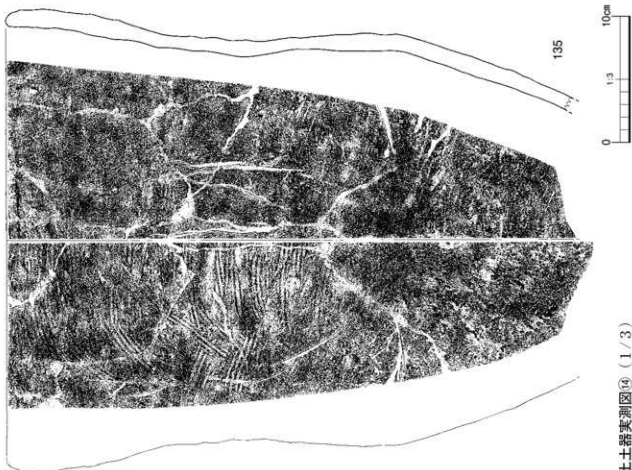




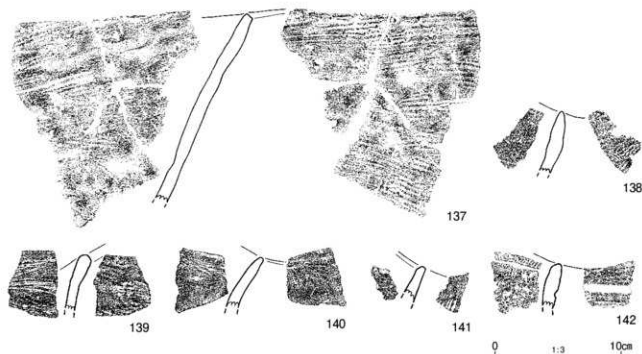
第21图 A区Ⅱ层出土土器实测图②(1/3)



第22図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑩(1/3)



第23图 A区Ⅱ层出土器类图④(1/3)



第24図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑮(1/3)

43は波状口縁を対し、口縁部は断面を三角形に肥厚させ、3本一単位の弧状の凹線を連続して施す。

44～48は松山式土器の一群である。44口縁部は端部で著しく外反し、内面に連続貝殻腹縁文、2条の沈線、連続刻目を施す、45は波状口縁を呈し、口唇部には面を持ち、連続刻目を施す。47は口唇部の面が内傾し、その面と外面の端部に連点文を施す。

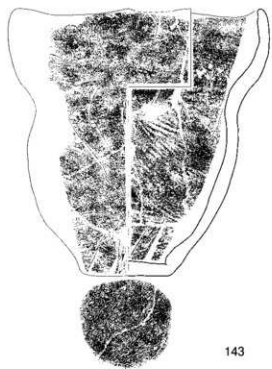
49～60は市来式土器の一群である。50～60は口縁部を断面三角形に肥厚させるが、くの字になるもの(50～53)、内面は直線的だが外面が後を持って肥厚するもの(54、55、57～60)に分かれるが、いずれも屈曲部上半に凹線、連続貝殻腹縁文、連続刻目を施す。また、波状口縁を呈し、口縁部は屈曲の内反りしながら外傾するタイプも見られる(49)、内外面ともに全面に明瞭な条痕を施し、横方向、斜め方向にランダムな連続貝殻腹縁文を施す。

61～128は丸尾式土器で、今回の調査で形式分類のできた土器の中で、最も出土量の多い群である。共通して口縁部に連続貝殻腹縁文を施す。61～100は、口縁部が屈曲して外反する丸尾A式とされる一群である。さらに波状口縁を呈する一群(61～80)、平縁口縁になる一群(81～100)に分けることができるが、84～86の口縁形は僅かに波状を呈しており、波状口縁をモチーフとした可能性も考えられる。

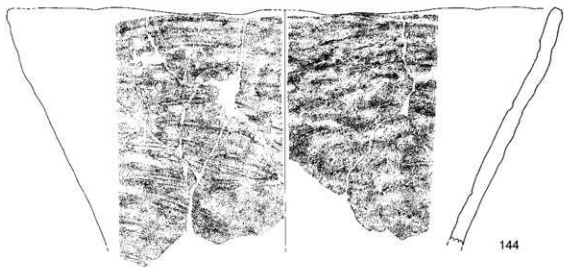
101～106口縁部に向け直線的に開く丸尾B式とされる一群である。101、102は胴部から口縁波状口縁を呈し、103～106は平縁口縁を呈する。なお、丸尾式土器の施文パターンの一つでもある口縁部に沈線をもつタイプは今回の調査で出土していない。

129～134は丸尾式土器に後続する納屋向タイプの一群と思われる。

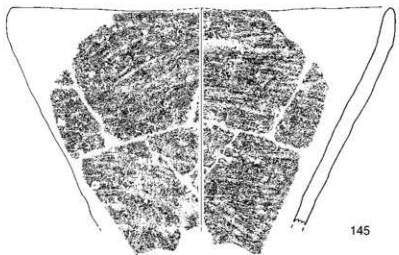
135～145は形式の判明しない一群である。135丸尾式の器形に似るが連続貝殻腹縁文が見られない。136は底部から口縁部に向け直線的に器、開き、口縁部に連続貝殻腹縁文を施し、僅かに波状口縁を呈する。143は、器形は49に近く胴部と口縁部間に屈曲を持ち、僅かに波状口



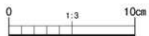
143



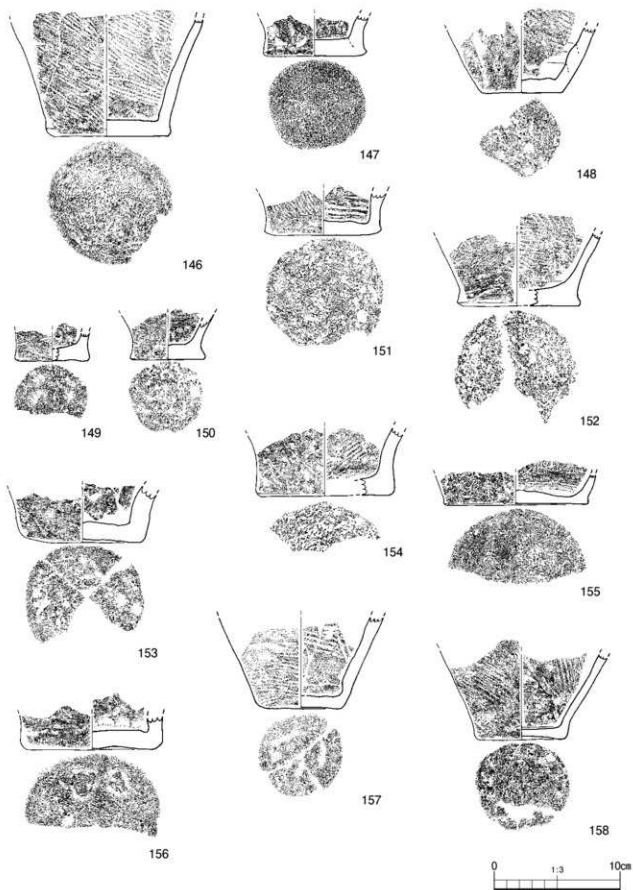
144



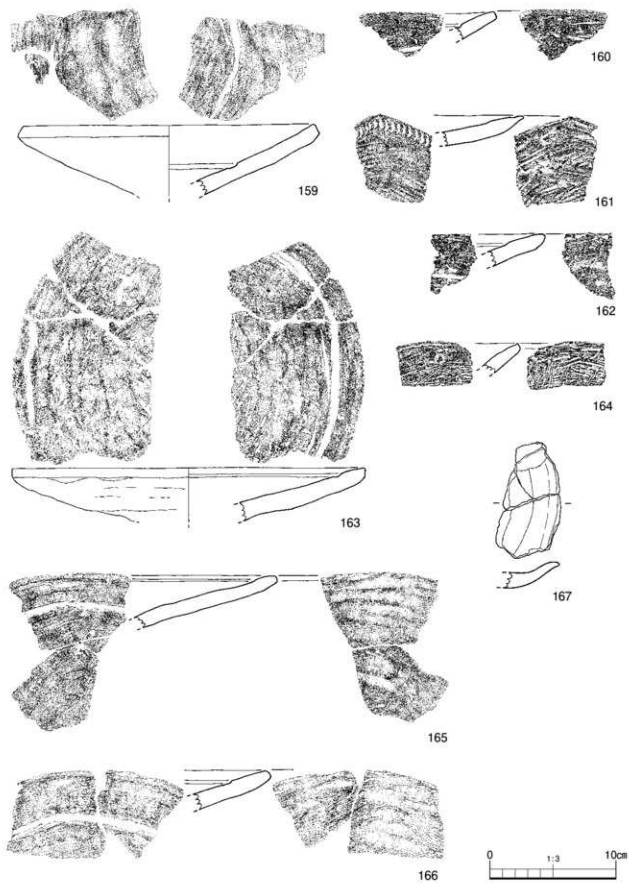
145



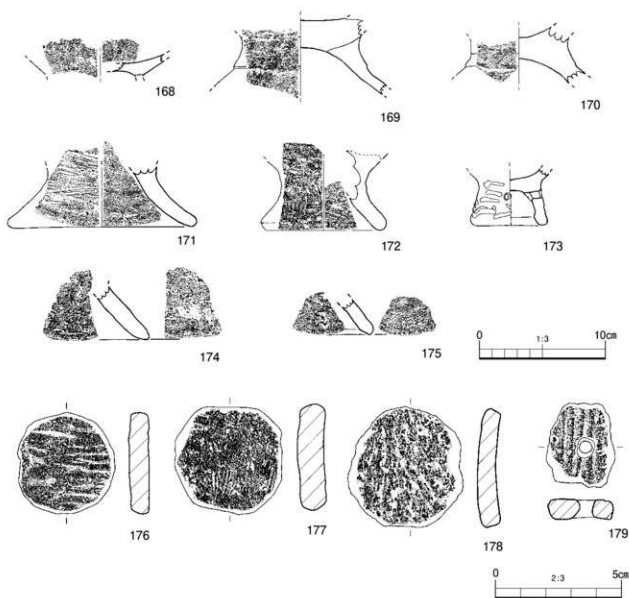
第25图 A区Ⅱ层出土土器实测图⑩(1/3)



第26図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑦(1/3)



第27图 A区Ⅱ层出土石器实测图⑩(1/3)



第28図 A区Ⅱ層出土土器実測図⑩(1/3、2/3)

縁を呈するが、内外面ともにナデ仕上げであるが、器壁が分厚く全体に粗雑である。144、145は口縁部が大きく開くタイプで内外面ともにナデ仕上げで、143同様、粗雑なつくりである。

146～158は深鉢型土器の底部で、平底、もしくはごく浅い上げ底を呈するが、いずれも木炭底や網代底は確認できない。146、154、157は器壁外面に白色の粘土を施す。

159～167台付皿形土器の一群である。器壁は厚く、内外面を粗いナデで仕上げるものが多い。また内面に沈線状の段を持つものもみられる(159、160、163、165、166)。161は口唇部内面に連続貝殻腹縁文を施し、皿部の平面形が円形にならない。

168～175は浅鉢形土器もしくは台付皿形土器の底部である。168～169は器壁が薄く、171～175は分厚い。173は裾部外面に規則性のない横方向の短い凹線が見られ、穿孔を施す。

175～179は土器加工円盤である。土器片を加工し作られ、素材の土器片により表面の調整が異なる。179は穿孔が見られる。

第4節 A区Ⅲ層の調査（第29図）

A区Ⅲ層の調査面積も上位のⅡ層と同様の調査面積である。調査区東側に設けた土層堆積を確認するためのサブトレンチによってⅢ層以下にも土器類の遺物を含む層を確認するため調査にあたった。Ⅲ層は調査区東側で約25cm堆積しているが遺物を含むのは、Ⅳ層に近いⅢ層の下部のみで、上部は無遺物層である。ただし、上部と下部の土質の違いは見られない。

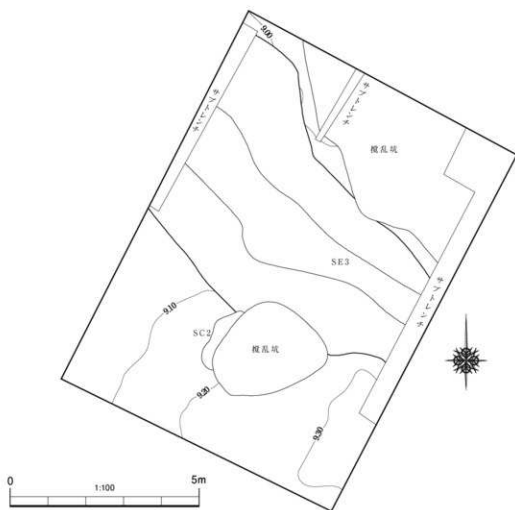
遺構はⅢ層除去後のⅣ層上面で溝状遺構が1条確認された。

3号溝状遺構（第30図）

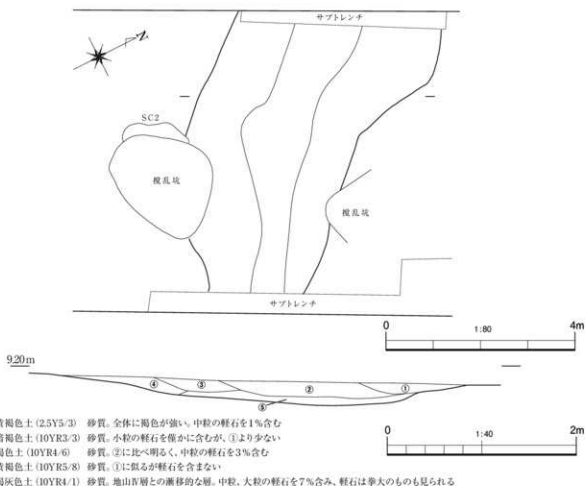
調査区の中央部を東西方向に走るように確認された。両側は調査区外に伸びる。幅は東側で2.0m、西側で4.4mを測り、断面形はレンズ状を呈し、深さ25cmを測り、底面は僅かに東から西に向かって下る。埋土内には特徴的に軽石を含んでおり、底面付近では中粒、大粒の軽石が多くみられる。遺物は180～183、188、189が出土している。溝状遺構と付しているが、構築時期が縄文期であることと、地山が砂質であることを加味すると人為的に設けられた溝ではなく、砂丘上にみられる浅い谷部に、水を伴い遺物が流れ込んだ痕跡と考えられる。

180～183、188、189は3号溝状遺構出土の土器である。

180は丸く張った胴部を持ち口縁部へは直立気味に立つ。内外面に条痕を残し、器壁は薄く



第29図 A区Ⅳ層上面検出遺構配置図（1/100）



第30図 A区3号溝状遺構実測図 (1/80、1/40)

作られる。

181、182は深鉢形土器の底部である。組織痕は認められない。

183は春日式土器で、口縁部が内傾し、外面には口縁端部2列、やや低い位置に2列、横方向に沈線を施した上から刻みを施す。

188は上水流式土器で、縦方向、及び横方向に断面三角状の突帯を施す。突帯上には貼り付け時の指頭の痕が細かく残る。

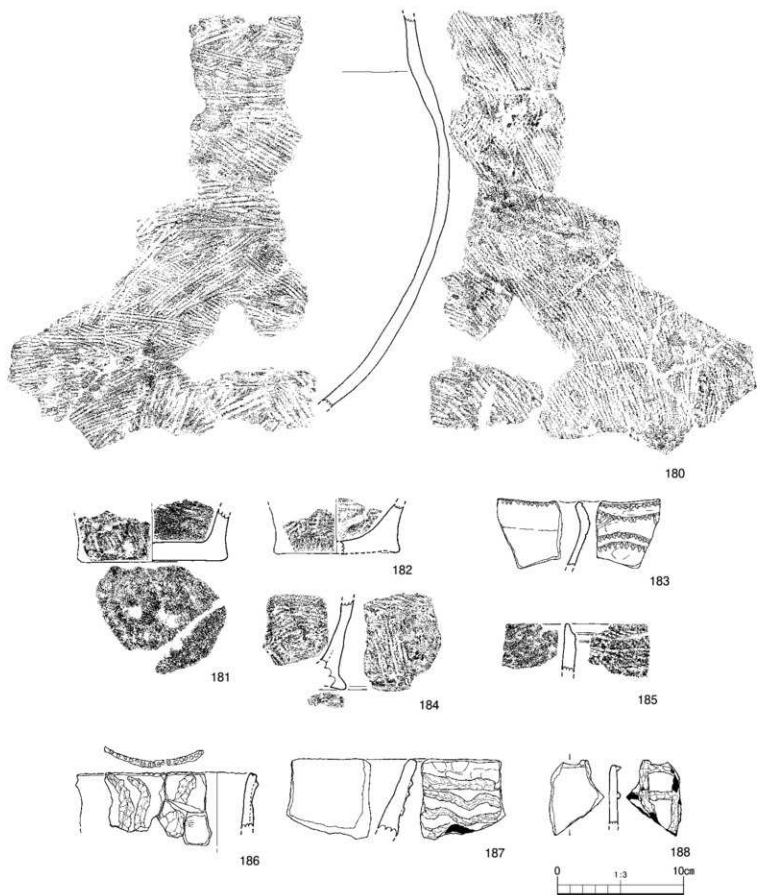
189は市来式土器で口縁部は直線的に開くが、端部近くで断面三角形に肥厚し、稜線の上半に斜方向の連続刻目を施す。

184～187、190～196はA区Ⅲ層出土の土器である。

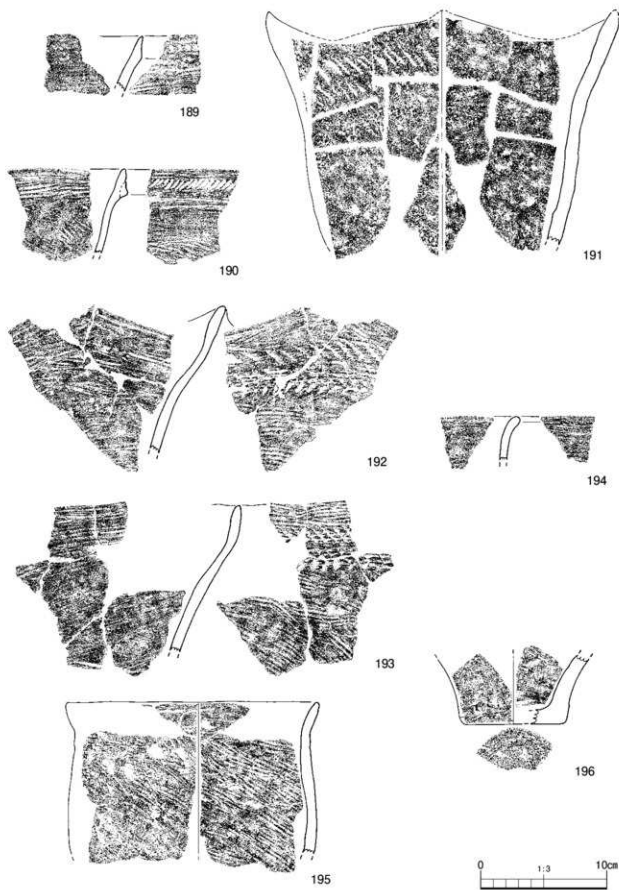
185は船元式土器である。

186、187は上水流式土器で、186は口唇部に連点文を施し、186は外面の縦方向に蛇行する断面三角状の突帯を施す。187は口縁部のやや下位で、横方向に1条の直線的な突帯、その下に3条以上の蛇行する突帯を施す。いずれも突帯上には貼り付け時の指頭の痕が細かく残る。

191、192、193、195は丸尾式土器である。口縁部の屈曲の状況から191は丸尾B式、192、193は丸尾A式に分類される。191、192は波状口縁を呈し、外面の口縁部にはいずれも2列の連続貝殻腹縁文を施す。



第31图 A区Ⅲ层出土土器实测图①(1/3)



第32図 A区Ⅲ層出土土器実測図②(1/3)

第1表 A区出土土器観察表①

発掘調査 区画番号	番号	遺構等	種類	流量 (m) () : 径			色 調		焼成	調整 文様		胎土 (上 : 下 : 量)					備考	実測 番号
				器種	口径	底径	器高	外面		内面	外面	内面	A	B	C	D		
P10 第7区	1	SC1	縄文土器 深鉢	(34.8)	(11.3)	46.3	5YR6/6 黄赤褐色	5YR5-8 黄赤褐色		条痕、ナデ、目取 溝による連続刺突文	不定方向 の条痕、指ナデ	1 多					丸尾B 内外面にス ス付着	674
	2	SC1	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5-6 明赤褐色	2.5YR5-6 明赤褐色		不定方向の条痕、ナ デ	不定方向の条痕	微 多					丸尾C 内外面にス ス付着	680
	3	SC1	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR4/1 灰灰	7.5YR5-3 にぶい黄	良好	条痕の後ナデ、目取 溝し引き文	条痕の後ナデ	6 1	少				丸尾B 内外面にス ス付着	411
P11 第8区	4	SC1	縄文土器 深鉢	—	10.8	—	2.5YR6-5 明赤褐色	2.5YR6-6 褐色		目取溝線による肩位 の連続刺突文、横方向 の条痕、条痕、ナデ	横方向の条痕、 ナデ、指ナデ	微 多					丸尾式 内外面にス ス付着	673
	5	SC1	縄文土器 深鉢	(24.3)	—	—	5YR5-4 にぶい赤褐	5YR5-4 にぶい赤褐	良好	ナデ、条痕の後ナデ	ナデ	2 少	多				後期前葉	408
	6	SC1	縄文土器 深鉢	(31.7)	—	—	5YR6-6 褐色	5YR6-6 褐色		ナデ、横・斜方向の 条痕、目取溝線による 肩位の連続刺突文	ナデ、横方向の 条痕	微 多					外周にスス 付着	682
P12 第9区	7	SC1	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5-2 灰褐	7.5YR5-3 にぶい黄		条痕、工具による刺 突文	条痕の後ナデ	2 1	微 少				市東	406
	8	SC1	縄文土器 深鉢	(38.3)	—	—	5YR5-4 にぶい赤褐	2.5YR5-8 明赤褐色		目取溝線による肩位 の連続刺突文、連続目取 溝文、不定方向の条痕	ナデ、指ナデ ナ、指ナデ	微 多					内外面にス ス付着	675
	9	SC2	縄文土器 深鉢	—	(10)	—	5YR4-2 灰褐	5YR7-1 明褐色	良好	条痕	工具ナデ、ナデ	2 1	微 少	微 少				410
P13 第10区	10	SC2	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4-2 灰褐	7.5YR5-3 にぶい黄	良好	ナデ、条痕	目取刺突文、凹 線文、条痕の後 ナデ	3 微	微 少				松山	407
	11	SC2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5-4 にぶい赤褐	5YR5-4 にぶい赤褐	良好	ナデ、目取刺突文、 凹線文	条痕	3 1	微 少				市東	414
	12	SC2	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5-2 明灰黄	7.5YR5-2 灰黄	良好	条痕の後ナデ、工具 による押し引き文	条痕の後ナデ	1 1	微 少	微 少			宮之迫1式 口唇部にナ デ	409
P13 第10区	13	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7-1 明褐色	7.5YR5-2 灰黄	良好	連続刺突文、目取 溝	縦目目、条痕	微 多	微 少				春日式	158
	14	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7-1 明赤灰	10YR5-1 灰灰	良	工具による刺突文、 凹線文、ナデ	ナデ	1 微	微 少					202
	15	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR8-1 灰白	10YR6-2 灰黄褐	良好	工具による刺突文、 ナデ	ナデ	2 微	微 少					203
	16	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5-2 灰黄	7.5YR5-3 にぶい黄	良好	ナデ、縦線?	ナデ	1 微	微 少	微 少			大平式	356
	17	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4-2 灰赤	2.5YR5-1 黄灰	良好	ナデ	ナデ	0.5 微	微 少				出水流石 器口唇部に ナデ	167
	18	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5-2 灰黄褐	10YR6-2 にぶい黄	良好	条痕、凹線文	条痕の後ナデ	2 1	少 微				宮之迫1式 口唇部にナ デ	318
	19	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5-2 灰黄	10YR5-2 にぶい黄	良好	条痕の後ナデ、凹線 文	条痕の後ナデ	2 微	微 少				宮之迫2式	343
	20	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5-2 灰黄	10YR5-2 灰黄	良好	条痕の後ナデ、凹線 文	条痕の後ナデ	微 少	微 少				宮之迫3式	344
	21	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7-1 明褐色	10YR5-2 灰黄	良好	条痕、肩付突帯 に目取刺突文	条痕の後ナデ、 ナデ	微 少	微 多				宮之迫3式	164
	22	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4-2 灰褐	5YR7-1 明褐色	良好	ナデ、ナデの後凹線 文	ナデ、沈線	微 少	微 少				宮之迫3式	183
	23	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6-2 灰黄褐	10YR6-2 にぶい黄	良	凹線文、目取刺突文、 ナデ	ナデ	2 1	微 少				宮之迫4式 口唇部にナ デ	169
	24	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5-2 灰赤	5YR7-1 明褐色	良好	ナデ、ナデの後凹線 文	ナデ	1 多	微 少				宮之迫4式	170
25	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5-2 灰黄	5YR5-1 灰灰	良好	ナデ、刺突文、凹線 文	ナデ	1 微	微 少				宮之迫4式	171	
26	AⅡ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5-2 灰黄	10YR6-2 灰黄	良好	凹線文、ナデ	条痕	3 1	多 微				宮之迫4式	172	

第2表 A区出土土器観察表②

発掘区 図番号	番号	遺構等	種類	法量(m)			色		調	焼成	調整		土土(上・下・量)					備考	実測 番号
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	A	B	C	D	E		
P13 第10区	27	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2 灰黄緑	10YR7/1 灰白	良好	ナデ、ナデの後凹 文	横方向のナデ	2 1	少				宮之迫4式	173	
	28	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰	7.5YR4/2 灰	良好	ナデの後凹文	横方向の糸状の 後ナデ	微 僅				宮之迫4式	174		
	29	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2 灰黄緑	10YR5/3 にぶい黄緑	良好	刺突文、凹線文、ナ デ	ナデ	1.5 多				宮之迫4式	175		
	30	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰	7.5YR5/2 灰	良好	ナデ、凹線文	ナデ、工具痕 目	2 7				宮之迫4式	196		
	31	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2 灰黄緑	10YR6/3 にぶい黄緑	良好	ナデ、目め方向工 具による凹線文、横方 向の凹線文	横方向糸状の後 ナデ	1.5 1	少				宮之迫4式	184	
	32	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰黄緑	10YR5/2 灰黄緑	良好	凹線文、ナデ	糸状の後ナデ	微 多				宮之迫4式	197		
	33	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 灰	7.5YR5/2 灰	良好	凹線文、刺突文、ナ デ	ナデ	微 多				宮之迫4式	207		
	34	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰	7.5YR4/1 灰	良好	ナデ、波線文	ナデ	微 僅				宮之迫4式 口唇部にキ ザリ	209		
	35	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR7/1 明灰	7.5YR6/3 にぶい黄緑	良好	ナデ、凹線文	横方向の糸状	1 僅				宮之迫4式 口唇部にキ ザリ	211		
	36	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/2 灰黄緑	10YR6/2 灰黄緑	良好	目状刺突文、凹線文、 ナデ	ナデ	微 多				宮之迫4式	212		
	37	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰	7.5YR5/3 にぶい黄緑	良好	凹線文、ナデ	ナデ	2 多				宮之迫4式	215		
	38	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/2 灰赤	5B7/1 明赤灰	良好	ナデ、ナデの後工 具による刺突文、 凹線文	横・斜方向のナ デ	微 少				宮之迫4式	217		
	39	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰	10YR5/2 灰黄緑	良好	目状押し引き、凹線 文	糸状	1 少				宮之迫4式	305		
	40	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3 にぶい黄緑	10YR6/3 にぶい黄緑	良好	ナデ、凹線文、刺突 文	ナデ	1.5 僅				宮之迫4式	336		
	41	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2 灰黄緑	7.5YR5/2 灰	良好	糸状の後ナデ、凹線 文	糸状の後ナデ	0.5 少	1 僅			新竹	329		
	42	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰	7.5YR7/1 明灰	良好	ナデ、横・目方向の ナデ、凹線文	斜方向のナデ	微 少				新竹	39		
	43	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 灰	7.5YR5/2 灰	良好	ナデ、凹線文	糸状	2 微 僅				新竹	365		
	44	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 灰	10YR5/2 灰黄緑	良好	ナデ	目状刺突文、凹 線文、刺突文、 糸状	1 僅				松山	156		
	45	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい黄緑	10YR5/2 灰黄緑	良	ナデ	ナデ	3 1 僅 僅				市来 口唇部にキ ザリ	213		
	46	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR7/1 明灰	7.5YR4/2 灰	良好	横方向の糸状	横方向の糸状	2 微 僅				松山系	182		
	47	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 灰	7.5YR2/2 灰	良好	刺突文、ナデ	工具ナデ、ナデ	1 少 僅				松山?	206		
48	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰	7.5YR4/1 灰	良好	刺突文、ナデ	ナデ	微 多				松山系	210			
49	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/2 灰	5YR5/3 にぶい黄緑	良好	糸状の後ナデ、目状 刺突文	糸状の後ナデ、 目状刺突文	3 1 少 僅	1 僅			市来	350			
50	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰	10YR5/2 灰黄緑	良好	ナデ、棒状刺突文、 凹線文、指オサエ	糸状	微 僅				市来	311			
51	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい黄緑	7.5YR5/3 にぶい黄緑	良	糸状、糸状の後ナデ、目 状刺突文、凹線文、刺 突文、目状押し引き文	糸状	4.5 僅				市来	321			
52	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤	5YR5/4 にぶい赤	良好	ナデ、棒状刺突文、 凹線文、糸状の後ナ デ	糸状の後ナデ	3 少 僅				市来	310			

第3表 A区出土土器観察表③

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種類	法量 (m) () : 價元			色 調		焼成	調整 文様		胎土 (上 下 量)					備考	実測 番号	
				器種	口径	底径	器高	外面		内面	外面	内面	A	B	C	D			E
P14 第11回	53	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰黒	7.5YR5/2 灰黒	良好	糸痕の後ナデ、貝殻 刺突文、凹線文、棒 状刺突文、糸痕	糸痕	2.5	微				糸赤	346	
	54	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/3 にぶい	7.5YR5/2 灰少	良好	刺突文、凹線文、糸 痕	糸痕	1	少				糸赤	313	
	55	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい	7.5YR5/3 にぶい	良好	凹線文、変形、糸痕、 棒状刺突文	糸痕、ナデ	1	微				糸赤	335	
	56	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/2 灰黒	5YR7/1 明灰黒	良好	粗いナデ、工具による 刺突文、凹線文、 貝殻刺突文	糸痕	3.5	微				糸赤	7	
	57	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい	10YR5/2 灰黄黒	良好	凹線文、ナデ	糸痕の後ナデ	3	1				糸赤	163	
	58	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰黒	7.5YR5/2 灰黒	良好	刺突文、沈線、糸痕、 ナデ	糸痕	微	少				糸赤	208	
	59	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰黒	7.5YR5/3 にぶい	良好	凹線文、貝殻押し引 き、糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	微					糸赤	360	
	60	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰黒	10YR5/2 灰黄黒	良好	糸痕、貝殻押し引 き後のナデ、凹線文	糸痕	3.5	微				糸赤	327	
	P15 第12回	61	AⅡ層	縄文土器 深鉢	39.7	11.5	45.8	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	良好	連続貝殻刺突文、へ状 工具による連続刺突文、 斜方向の粗い糸痕	糸痕、ナデ	微	多				丸尾A	676
		62	AⅡ層	縄文土器 深鉢	(29.8)	(11.1)	41.7	5YR5/2 にぶい	5YR5/3 にぶい	良好	連続貝殻刺突文、へ状 工具による連続刺突文、 斜方向の粗い糸痕	糸痕、ナデ	1	多				丸尾A 外面にスス 付着	681
P16 第13回	63	AⅡ層	縄文土器 深鉢	(27.2)	9	32.2	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	良好	斜位の連続貝殻刺突 文、横方向の糸痕、 斜方向の糸痕	凹線刺突に付けた 糸痕、横方向の糸 痕、ナデ、粗ナデ	微	多				丸尾A 外面にスス 付着	683	
	64	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい	7.5YR7/1 明灰黒	良好	ナデ、糸痕の後ナデ 後貝殻刺突文	糸痕	2	少				丸尾A	27	
	65	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰黒	5YR5/3 にぶい	良好	横・斜方向の糸痕、貝 殻刺突文	横方向の糸痕	1	微				丸尾A	24	
	66	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR7/1 明灰黒	5YR5/3 にぶい	良好	貝殻刺突文、糸痕	糸痕、ナデ	微	多				丸尾A	32	
	67	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰黒	5YR4/2 灰黒	良好	貝殻刺突文、ナデ	ナデ	微	多				丸尾A	56	
	68	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰黒	7.5YR5/3 にぶい	良好	横方向の糸痕、貝殻 刺突文、ナデ	横方向の糸痕	1	少				丸尾A	52	
	69	AⅡ層	縄文土器 深鉢	(43.8)	—	(22.1)	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	良好	横・斜方向の糸痕、 貝殻刺突文による 斜位の連続刺突文	横・斜方向の糸 痕	3	1				丸尾A	690	
	P17 第14回	70	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR7/1 明灰黒	7.5YR5/3 にぶい	良好	貝殻押し引き、糸痕	工具によるナデ	5	1				丸尾A 口唇部にキ ズあり	42
71		AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR7/1 明灰黒	7.5YR5/3 にぶい	良好	貝殻刺突文、ナデ	糸痕の後ナデ	1	多				丸尾A	99	
72		AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰黒	5YR7/3 にぶい	良好	糸痕の後ナデ、貝殻 刺突文、ナデ	糸痕、糸痕の後 ナデ	2	1				丸尾A	49	
73		AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR7/1 明灰黒	5YR5/3 にぶい	良好	糸痕の後ナデ、貝殻 刺突文	糸痕の後ナデ	4	1				丸尾A	100	
74		AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR7/2 にぶい	5YR5/4 にぶい	良	貝殻刺突文、ナデ	ナデ	3	微				丸尾A	94	
75		AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR4/1 灰黒	7.5YR4/2 灰黒	良好	貝殻刺突文、糸痕	糸痕	微	多				丸尾A	103	
76		AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰黒	7.5YR5/3 にぶい	良好	ナデ、貝殻刺突文	糸痕の後ナデ	3					丸尾A	104	
77		AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい	7.5YR5/3 にぶい	良	ナデ、貝殻刺突文	ナデ	2					丸尾A	152	
78	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい	5YR5/3 にぶい	良好	糸痕、糸痕の後貝殻 刺突文	糸痕	3	0.5				丸尾A	304		

第4表 A区出土土器観察表④

発掘調査 図番号	番号	遺構等	種類	流量 (m) () : 還元			色 調		焼成	調整 文様		胎土 (上 : 下 : 量)					備考	実測 番号	
				口径	底径	高さ	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E			
P17 第14区	79	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR4/2 灰黒	75YR4/2 灰黒	良好	糸組、貝殻刺突文、ナデ	糸組	4	15				丸尾A	320	
	80	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR6/1 灰黒	25YR4/3 にぶい赤黒	良好	貝殻刺突文、貝殻押し引き、糸組の後ナデ	糸組	1	幾多				丸尾A	48	
P18 第15区	81	AⅡ層	縄文土器 深鉢	(30.1)	9.4	34.6	25YR4/8 赤黒	25YR4/8 赤黒	良好	縄目貝殻縁文、へうろこ目による連続刺突文、横・斜方向の糸組、ナデ	横・斜方向の糸組、横方向の糸組、不定方向の糸組	1	多				丸尾A 内外面にス テッチ	684	
	82	AⅡ層	縄文土器 深鉢	39.8	—	(39.3)	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、横・斜方向の糸組、連続貝殻縁文	横・斜方向の糸組、不定方向の糸組	1	多				丸尾A	671	
P19 第16区	83	AⅡ層	縄文土器 深鉢	38.8	—	(40.9)	5YR5/4 にぶい赤黒	5YR5/8 明赤黒色	良好	ナデ、横・斜方向の糸組、貝殻縁による斜位の連続刺突文	横方向の糸組、横方向の糸組の後ナデ	1	多				丸尾A	670	
	84	AⅡ層	縄文土器 深鉢	(32.1)	—	(26.5)	25YR5/8 明赤黒	25YR5/8 明赤黒色	良	ナデ、横・斜方向の糸組、連続貝殻縁文	ナデ、横・斜方向の糸組	1	幾多				丸尾A 内面にス テッチ	679	
P20 第17区	85	AⅡ層	縄文土器 深鉢	(41.4)	—	(49.6)	5YR7/4 にぶい橙	25YR6/6 橙色	良好	ナデ、へうろこ目による連続刺突文、連続貝殻縁文2ヶ所、斜方向の糸組	横・斜方向の糸組の表裏	幾多					丸尾A	672	
	86	AⅡ層	縄文土器 深鉢	(41.5)	—	(19.7)	75YR6/4 にぶい橙	75YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、貝殻縁による横・斜位方向の連続刺突文	ナデ、横方向の糸組	2	1	多			丸尾A	688	
P21 第18区	87	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/3 にぶい赤黒	10YR8/1 灰白	良好	糸組の後ナデ連続貝殻縁文3段の連続刺突文、体状上段による押し引き	糸組の後ナデ	15	幾多				丸尾A	2	
	88	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰黒	5YR5/4 にぶい赤黒	良好	ナデ、貝殻縁による2段以上の連続刺突文	横方向の糸組	1	少				丸尾A	4	
	89	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR4/2 灰黄黒	5YR7/1 明灰黒	良好	糸組の後ナデ、貝殻縁による2段以上の連続刺突文	糸組の後ナデ	25	幾少				丸尾A	9	
	90	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR4/2 灰黒	5YR7/1 明灰黒	良好	糸組の後ナデ、貝殻縁による2段以上の連続刺突文	糸組	幾少					丸尾A	11	
	91	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰黒	5YR5/3 にぶい赤黒	良好	糸組の後ナデ、貝殻縁による2段以上の連続刺突文	糸組の後ナデ	1	少				丸尾A	13	
	92	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/3 にぶい赤黒	75YR5/3 にぶい赤黒	良好	糸組の後ナデ、貝殻縁による2段以上の連続刺突文	ナデ	4	1	少			丸尾A	14	
	93	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR4/2 灰黒	5YR7/1 明灰黒	良好	糸組の後ナデ、貝殻縁による2段以上の連続刺突文	横方向の糸組	2	幾少				丸尾A	34	
	94	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰黒	5YR5/3 にぶい赤黒	良好	糸組の後ナデ、貝殻縁による2段以上の連続刺突文	糸組の後ナデ	2	1	多			丸尾A	37	
	95	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR7/1 明灰黒	75YR7/1 明灰黒	良好	ナデ、貝殻縁による2段以上の連続刺突文	糸組の後ナデ	1	1	少			丸尾A	45	
	96	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR7/1 明灰黒	75YR5/3 にぶい赤黒	良好	ナデ、貝殻縁による2段以上の連続刺突文	糸組の後ナデ	1	1	少			丸尾A	55	
	97	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰黒	10YR5/1 灰黒	良好	糸組の後ナデ、貝殻縁による2段以上の連続刺突文	横方向の糸組	1	少				丸尾A	51	
	98	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明灰黒	5YR5/3 明灰黒	良好	ナデ、貝殻縁による2段以上の連続刺突文	ナデ	1	幾少				丸尾A	57	
	99	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR5/2 灰黒	75YR7/1 明灰黒	良好	糸組の後ナデ、貝殻縁による1段以上の連続刺突文	ナデ	2	1	少			丸尾A	63	
	100	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤黒	75YR7/1 明灰黒	良好	糸組の後ナデ、貝殻縁による2段以上の連続刺突文	横・斜方向の糸組	幾少					丸尾A	96	
	P22 第19区	101	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR5/2 灰黒	5YR4/3 にぶい赤黒	良好	糸組の後ナデ、貝殻縁による1段の連続刺突文	糸組	3	1	少			丸尾B	301
		102	AⅡ層	縄文土器 深鉢	(37.8)	—	—	75YR5/3 にぶい赤黒	75YR5/3 にぶい赤黒	良好	横・斜方向の糸組、貝殻縁による斜位の押し引き	横・斜方向の糸組	4	幾多				丸尾B	298
	P23 第20区	103	AⅡ層	縄文土器 深鉢	(28.8)	—	(36.6)	5YR5/6 明赤黒	5YR5/6 明赤黒色	良好	横・斜方向の糸組、貝殻縁による2段の斜位の連続刺突文	横・斜方向の糸組	1	多				丸尾B	685
		104	AⅡ層	縄文土器 深鉢	29.6	—	17.7	75YR6/2 灰黒	75YR 橙色	良好	2段連続貝殻縁文、貝殻縁による斜位の連続刺突文、横・斜方向の糸組	斜方向の糸組の後ナデ	1	1	多			丸尾B	687